三鷹市立第五中学校　令和8年度【国語】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○三鷹市小・中一貫カリキュラムに基づいて単元計画を作成することで教員間での単元における重点目標等の共有や進度の調整を行うことができるようになった。	〈現状〉 ○小学校と中学校の授業形態の違いにも慣れ、授業のリズムや流れを考えて授業に臨むことができる生徒が増えてきている。 ○「個→小集団→全体学習→個の学習へのフィードバック」の流れを継続し、生徒が課題意識をもって授業に臨んでいる。 ○単元ごとの評価規準を示し、課題の取り組み方や目標、達成度を確認しながら授業に臨んでいる。 〈課題〉 ○授業で学習した内容を家庭で復習する生徒が少なく、学習内容の定着に時間を要する。 ○調査・収集した情報を目的に応じて整理し、文章等で表現する力の定着が不十分である。	○計画的な板書や用いる記号・色使い等の統一化を図り、「どこに何が書いてあるのか」「１時間の授業の要点は何だったのか」が明確になるよう工夫して指導する。 ○発表（話す・聞く）活動の中で、聞き手から話し手への反応でより学習が深められるようなやりとりができるよう指導する。 ◎単元の振り返りや教科書ワークの取り組みなど、学習内容の復習を過程で行うことが出きるよう、課題や提出期限を設定する。 ◎生徒同士の意見交流、共有の時間を長くとり、他者の考えをヒントに自身の意見を構築することができるよう時間を確保する。
第2学年	○三鷹市小・中一貫カリキュラムに基づいて単元計画を作成することで教員間での単元における重点目標等の共有や進度の調整を行うことができるようになった。 ○期間を設けた課題を期間内で、いつ学習していくか自分自身で取り組めるようになった。	〈現状〉 ○単元で学習した内容を振り返り、学習を通して学んだことを、その後のどのような場面で活用できるのか考える時間を作っている。 ○授業内での意見交流を通して、自他の意見を比較させる機会を意図的に作っている。 ○漢字技能の小テストや期間を決めた課題を設定し、家庭学習の定着を図っている。 〈課題〉 ○定期的な小テストのために事前に学習する習慣は定着してきたが、長期記憶(長期的な技能の定着)には繋がっていない。 ○話し言葉と書き言葉の区別をはじめ、目的に応じた適切な文章を書く力が不足している。経験と語彙の不足が大きな課題である。	○学習した内容を活用し発展させる単元において、既習事項を振り返り、学んだことが定着し、意識的に活用できているか確認する機会をつくる。 ○複数名の意見をまとめ、より良い意見を考える課題を通し、自身の意見を振り返り、推敲していく基盤をつくる。 ○文章を書く前に、文章構成や言葉遣いの例を示し、文章の要点を伝えるために効果的な構成を考える時間を設ける。その後、書いた文章を生徒同士で比較し、より良い表現方法を見て学ぶ機会とする。 ◎板書事項以外で自ら学習した内容をノートに記述し、見返しやすいノート作成を促す。 ◎自主課題の提出を積極的に評価し、学習の反復のペースや記録の残し方など生徒自身がそれぞれ適切な方法を工夫しながら自主学習に取り組むことができる環境を作る。 ◎課題の提出日まで期間を設定し、期間内のどの日程で学習を進めていくのかを決めて取り組めるようにする。
第3学年	○三鷹市小・中一貫カリキュラムに基づいて単元計画を作成することで教員間での単元における重点目標等の共有や進度の調整を行うことができるようになった。 ○教科書本文を読み込む時間を設け、自分で整理する活動を行ったことで、読み取る力が向上した。	〈現状〉 ○生徒が自分の力で整理し、かつ振り返りがしやすいように、ワークを工夫し活用している。 ○個の学習、小集団の学習、全体学習を使い分け、学習内容や生徒の実態にあった授業を展開している。 ○定期的に漢字に関する小テストと、期間を決めた課題に取り組んでいる。 〈課題〉 ○文章の読み取りにおいて、内容の前後のつながりの理解が不十分になってしまうことがある。また問題に出されている内容を正確に読み取れていない場合が多く見られる。 ○自分の考えを文章におこしたり、語彙力の不足から適切な言葉を選んで使うことが十分にできていない。	【指導方法の課題】 ○自分の考え、意見を整理しまとめる時間の確保と、苦手意識のある生徒への補助的な手立ての開発。 ○自分の意見と他人の意見を比較して、より考えを深 めたり新たな視点を得たりすることができる効果的な意見交流の機 会の設定。 ○観点を明確化して提示し、生徒が考えを記述する際にどういったことを大切にするべきか伝わりやすいようにする。 【授業改善策】 ◎課題（題材）を極力具体的で明確な言葉で示すようにする。意見記述の課題については、参考となる文章を例示し、形式をまねることから文章構成力の向上を促す。 ◎語彙力の向上のため、教科書以外の例文として便覧を活用し、より多くの言葉に触れる機会を作る。